

研究タイトル：

芸能にあらわれる日本思想史研究



氏名： 佐々木 香織 / SASAKI Kaori E-mail: sasaki@ishikawa-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 修士(地域研究)

所属学会・協会： 日本倫理学会、日本思想史学会、比較思想学会、能楽学会など

キーワード： 芸能史、能楽、世阿弥

技術相談

提供可能技術：

- ・世阿弥能楽論、芸能史、北陸の文芸と歴史に関する講演
- ・
- ・

研究内容：

■ 思想史へのアプローチ

日本は西洋文明のように哲学史の伝統を持たないため、日本において中世の思想を論じようとする、多くは特定の宗教家の言説をテキストとして研究することになる。しかし、例えば「武士道」のような規範意識の起源や範通性、時代ごとの変遷などは、特定の思想家・宗教家の言説の研究のみでは明らかにすることはできない。

■ 人びとの規範意識

『平家物語』における坂東武者は君臣の繋がりを重視し、殺戮が仏教の教えに反することを自覚しつつも、忠義のためには我が子さえも犠牲にして主のために戦った。この「武者の習い」という規範意識は、関東武士団という共同体の規範を明確に示すものであり、日本中世思想のひとつの在り方を示すものといえよう。このような規範意識を明確にするには、物語や絵巻物などをも視野に入れなければならないであろう。

■ 中世庶民の心性

寺社の祭礼行事としてではなく、金銭をとって芸能を行う勧進興行という形態が現れ始めた当時の能楽は、金を払う側の気持ちを斟酌して作品を作り上演しなければならなかった。そのため、この時代の謡曲には、貴族や武家、また、能を見に行った当時の大衆の心性もが反映されていると考えられている。

そのため、これまでは特に謡曲を中心とした芸能から、中世の人々の社会的慣習と、その慣習を根柢づける当時の人々の道徳的心情や、共同体を形成し維持するための個別具体的な規範を読みとる研究をしてきた。

■ 時代ごとに変化する同一の歴史的素材

日本の文芸には、同じ題材が異なる形式で扱われるものがある。例えば、現実に源平の争乱が起こり、それが『平家物語』として琵琶語りされ、さらに書承文芸となり、能の題材となり、能をアレンジした歌舞伎が現れるといったように、同じ題材が各時代にさまざまな様式で現れてくる。それらは、同一の素材を扱いながらも、その時代や状況の要請に応じた形式を持ち、そこに描かれる人々の在り方や共同体の規範意識も、その時代や状況に即した形に変化している。各時代の人々の根底にある意識について明らかにすることが研究の目的である。

■ 地域との結びつき

また勤務校の所在地には、『平家物語』とそれをあつかった能楽、歌舞伎にゆかりの地が多くある。石川高専に勤務後、文芸作品と歴史史料とを突き合わせ、実際の事件とフィクションとの相違点から往時の人々の心性を研究することも行ってきた。これらの研究成果は、学会の研究報告だけでなく授業にも反映させ、また県や能楽堂、大学などの市民講座でも講演し、市民の生涯学習にも貢献してきた。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	